

第5回 金沢市被災地区復旧技術検討会議（議事録）

令和7年8月22日

栗崎 意見交換

【座長】 実証実験のご説明を賜りまして、実証実験を踏まえた、いわゆる集排水計画の配置をご提案いただいているというところでございます。

釈迦に説法かもしれませんが、地下水位低下工法でこの栗崎はやっていこうというのが、この委員会で一応決めております。それに伴いまして、どう集排水計画、つまり地下にどういう管を埋設して地下水位を下げるかというところが大切になります。これにはまず、国からのガイダンス等々もありますけれども、実証実験をやったほうがベターだという話があったので、栗崎小学校の校庭を使って、鋭意実証実験をやってまいりました。このたび、その結果が出てまいりまして、今ご説明したとおりでございます。その結果を踏まえて、いわゆる栗崎の集排水計画、これをご提案いただきました。

さて、今日の資料に基づきまして、先生方、何かご提案あるいはご意見がありましたら、よろしくお願いを申し上げます。何なりと結構でございます。ちょっと説明が早かったかもしれませんが、再度説明をせよということであれば、また説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。いかがでございましょうか。

山岸先生、よろしくお願いします。

【山岸委員】 ご説明どうもありがとうございました。いくつか教えていただきたいことがございます。まず資料9ページ、不同沈下の計測をされておりまして、布基礎の上に敷鉄板を置いたという形になっております。その前のページには、沈下量が出ているのですが、ところどころプラスになっていると。本来ならば沈下しないといけないのかなと思いますが、プラスになっているところがあるというところで。この計測のことについてなのですが、その敷鉄板と布基礎というのがどういうふうに接合されているのか。例えば、どちらかが傾斜したら、どちらかが逆に上がってしまったとか、逆に空いているところがあるからそのところがプラスになったりとか、していたりするのかなと思ったのですが、布基礎と敷鉄板の接合部はどのようになっているのですか。

【事務局】 碎石の上に水平を確保したうえでH鋼を置きまして、その上に敷鉄板をそのまま置いております。

【山岸委員】 例えばレベルを測っているときに、H鋼と敷鉄板の隙間とかがあるとかないたか、というのはあまり確認されていないのでしょうか。

【事務局】 確認しております。

【山岸委員】 浮きはなかったということですか。

【事務局】 はい。

【山岸委員】 わかりました、ありがとうございます。

もう一点よろしいでしょうか、資料20ページのところになります。この断面図で、河川水位よりも低下したところをポンプアップするということなんですが。気になるのがこの辺は雪国ですので、冬季の融雪用の揚水をされると思うのですが、この辺の地盤沈下の状況はどうでしょうか。

もう一つは、先日みたいな大水がやってきたときに、河川に結構泥が流れてくる。泥が流れてくるということで、河の底がちょっと上がってきて、河川水位がちょっと上がってこないか、大水が続けば続くほどですけれども。そういうところで今回の設定というのが、これがいいのかどうか気になったところです。

それからもう一点が、ボイリングの影響はないのかどうかということです。ここで水頭勾配がつくことによって、もしかしたらこの内陸側といいましょうか、地盤側に少し発生する可能性があるのかないのか、ちょっとその辺りが気になったものですから。その3点についてご説明いただければと思います。

【事務局】 はい。まず地盤沈下ですけれども、栗崎地区におきましても、消雪装置が施されています。ただ消雪装置はかなり深い位置から水をとっております。その影響について、金沢市各箇所定期的に地盤沈下の計測をしており、栗崎地区におきましては、そういった地下水位を吸い上げることによって、大きな地盤沈下が経年的に発生しているということはありません。

河川水位の設定ですが、当初TP. 0.2ということで、河川の計画から設定していたものを、過去5年の平均水位に変えさせていただきました。それでも大雨等の懸念はあるのではないかと、大雨時にもっと水位が上がって、その場合は大丈夫なのかというご懸念ですね。

【山岸委員】 あと河床、河底ですね。泥が堆積するのではないかと。

【事務局】 はい。まず資料18ページをご覧くださいませでしょうか。ポンプ排水する箇所については、強制排水しますので、河川の水位に関係なく排水することになります。それ以外の範囲ですと、例えばBV-1、BV-3、BV-4、BV-c2、BV-5と見ていただきたいのですけれども、目標の地下水位がTP. 2.39、ここまで地下水位を下げれば液状化を抑制することができるということになっておりますので、大野川の計画高水位がEL. 1.1ですので、もしそこまで

上がっても、液状化を抑制できるということになります。

あともう一点、河川の浚渫につきましては、県の河川ということで、管理は県央土木さんとなります。確認しましたところ、現在大野川が河川改修中ということで、現時点では河川改修に合わせて取れるところは取っているという状況で、その河川改修が終わった後は定期的に観測しながら、必要に応じて浚渫していくというような話でした。

ボーリングについてですけれども、ここの護岸が矢板護岸となっておりまして、12メートル程度の矢板を打っております。ちょっとここははっきり我々の方で明確にはお答えできないんですけれども、石川県で護岸を設計するときに、ボーリング等の検討はしているというふうに思います。

【山岸委員】 地下水位が下がっても、ボーリングは発生しないと。

【事務局】 はい。発生する可能性は低いと判断しております。

【山岸委員】 わかりました。ありがとうございます。以上です。

【座長】 ありがとうございます。

今の山岸先生の最後の、ボーリングですけれども。資料20ページのイメージ図で排水ポンプの立坑がありますけれども。この底はどういう構造になるのですか。立坑構造の一番底の、ポンプが据えつくところです。

【事務局】 底盤はコンクリートを打設し、その上にポンプを設置します。

【座長】 全部コンクリートでということですね。わかりました。

ありがとうございます。他にいかがでございましょうか。

【宮島委員】 今回、ポンプで排水をするというところが大きな変更点だと思うのですが、ポンプのランニングコストは税金で十分カバーできるということを聞いたので、安心しているんですけれども。資料21ページの図で、エリア①-1のピンクのところの排水というのはどうなっているのでしょうか。ポンプの横にピンクのラインがありますけれど、それから自然流下で排出するという計画なののでしょうか。

【事務局】 略図でわかりづらいかと思いますが、ピンクの系統はそのまま樋管で排水することになりますし、ポンプはその樋管に強制排水するというような形です。ピンクの水路が上で、その下に青の水路があり、ポンプで樋管に水を強制排水するというような形になります。この細かい構造については現在詳細設計で詰めていくことになります。

【宮島委員】 ピンクとブルーは繋がっていないのですね。

【事務局】 繋がってはいないです。縁は切れております。

【宮島委員】 ピンクのところは、この図でいうと右の上に行って下がってくる、そういう流れになるのですか。①-1のエリアに近づいて、そのまま放流すると、そんな感じなのですね。わかりました、どうもありがとうございます。

【座長】 ありがとうございます。

他にいかがでございましょうか。安田先生、よろしくお願いします。

【安田委員】 資料7ページを見ますと、ポンプの不具合というのが3回あるということで、これが気になったのですけれど。どんな不具合だったのか、どうすれば直ったのかということをお尋ねいたします。

【事務局】 今回のポンプは仮設のポンプを設けており、プラグ部が露出しています。そこが漏電したことにより、ポンプが止まってしまいました。

【安田委員】 実際に設置するポンプについては、そういうことはないと。

【事務局】 そうですね。最終的にマンホールポンプを設置するものについては、しっかりと漏電対策等も施したものを設置することになりますので、そういった不具合は発生しないかと思います。

【安田委員】 わかりました。安心しました。

もう一つよろしいですか、資料20ページのところで。こういうふうに傾斜してきて、最後にポンプで吸い上げるということなんですが、ここまで降りてくるところの集排水管の傾き、勾配は結局いくらにされたんですか。平均でもいいですが、要するに勾配によって、このあたりが必要だとかどうか変わってきますよね。

【事務局】 1パーミリです。

【安田委員】 ギリギリでということですね。わかりました。

【事務局】 ほぼほぼレベルでも流れていくだろうということはあるんですが、勾配を待たせて、1パーミリで設計しております。

【座長】今日は企業局も来ていただいています。下水道管の場合は何パーセントくらいですか。

【下水道整備課】標準であれば2.5～3パーミリとか、汚水の場合はそれくらいの勾配で流しております。雨水の場合は流下能力や断面にもよりますが、一般的には2パーミリ程度です。

【事務局】今回は汚水に比べても綺麗ですし、雨水だと色々なものが混入する可能性もありますが、地下水は極めて混入が少ないということで、スムーズに流れるというふうに考えております。

【座長】座長からちょっとお聞きしていいですか。資料21ページで、これは地籍が変わる前のときの配置計画ですよね。つまり、側方流動や液状化が起こる前の、この地図の上で、配置計画を出してくれたわけですね。今は地籍が変わっているので、例えば道路も微妙に位置が変わっているだろうし、あるいは民地も微妙に、微妙ということもないかもしれませんが、大きく地籍が変わっていることもあります。事務局は相当現場へ足を運んでくれているんだけど、今の状態でもこの配置計画が可能であるというふうに考えていいのでしょうか。

【事務局】はい、その通りです。栗崎小学校南側の一番ずれが大きいところで、50センチ前後ということになっておりますが、平均して50センチもあるわけではなく、10センチあるかないかというところが概ねです。そういったことも踏まえまして、現在地籍の再測量で、細かくしっかりとしたものを確認しておりますけども、誤差も10センチ程度あることから、現地を見ましても十分に管を設置できるスペースがある、ということが現状です。

【座長】はい、わかりました。もう一点、事務局としての設定が、エリア①とエリア②とエリア③ということで、ピンクと緑とオレンジで分けていますね。この意味は何なのかご説明いただきたい。こういうふうに段階的に供用していくという意味があるのか、他の意味があるのか、教えてください。

【事務局】はい。地下水なので、流域という言い方は変なのかもしれませんが、大野川へ既存の樋管を使って吐き出す箇所が大きく3箇所あります。その流域ごとといいますか、吐き口ごとに①②③と分けております。

【座長】今のところ時期尚早けども、どういうエリアを優先的にやっていくとか、どこから攻めていくのか、詳細設計等々で決めるだろうと思いますけど。事務局案としては、

このエリアごとにある程度完成したら供用を開始するのか、それともエリア①②③と全てが出来上がってから供用を開始するのかというのは、今のところまだ決まっていませんか。

【事務局】 座長がおっしゃるとおり、今後それを細かく詰めていくことにはなります。エリア①②③が全部完成してから供用開始ということではなく、エリアごとの供用を検討しています。エリアの中で、最も下流が出来ればすぐ流せますので、順次開放して供用していきたいというふうに考えております。

【座長】 わかりました。他にございませんでしょうか。宮島先生どうぞ。

【宮島委員】 その図の、エリア②が大きいんですね。エリア②の右側の領域が、エリア③の集排水管に流れるということは考えられないんですか。勾配が何かのせいで、エリア②の右側もずっと引っ張って、左側の集排水管にもってくるというふうになっているんですかね。

【事務局】 道路の縦断勾配等を踏まえて、これが最適という結果になります。

【宮島委員】 わかりました。

【安田委員】 先ほどの座長のお話の続きなのですが、工事着手はわかったんですけども、工事終了はいつ頃になりますか。

【事務局】 非常にお答えしにくいんですが、今回この計画で皆様のご承認をいただければ、直ちに準備にかかりたいと思っております。国の補助金を使って行っていくわけですから、国ともしっかりと連携し、要望し、これまでに引き続いてご支援をしていただきながら、工事を進めていきたいというふうに考えております。

ただ同様の規模で発生しました熊本では、発災から約9年ぐらいかかっておりますけれども、幸い金沢市の場合は合意形成が去年1年で済んでおりますので、直ちに工事を進めまして、熊本よりも早い段階で工事を完了させたいと思っております。

【安田委員】 東日本大震災ではさらに早く終わっていますので、もう少し調べていただいてもいいかと。

それと工事の時に、道路復旧工事と上下水道復旧工事がありますが、道路は液状化対策を施工した後に行っていくということなんですね。上下水道の工事とはどういう関係になるんですか。

【事務局】 地下水位が高いので、まず液状化対策工事を行います。一部で開削による施工の部分もありますが、地表面からGLマイナス3メートルぐらいに集排水管を配置しますので、おおむね推進により施工します。液状化対策工事をして、ある程度地下水位を下げた状態で、現在仮復旧になっている上下水道の本復旧を行いまして、その後、表面の道路の復旧工事を行うというような流れで考えております。

【安田委員】 上下水道は開削工事で行うということですか。

【事務局】 はい。開削工事の予定です。

【安田委員】 下水の場合に、埋戻土が液状化して被害を起こすということが結構昔からあります。2004年の新潟県中越地震の後にその様子が起こり、注意しなさいと、締め固めや、砕石・セメント改良とかされたんですが。今回もそこは締め固めぐらいまではきちんとやっておいた方がいいかと思います。

【下水道整備課】 下水道の復旧工事では、改良土を用いることになっております。これは下水道で、平成13年以降ぐらいから発生しました土砂を石灰改良しまして、それを用いて埋戻しをしております。こうすることによって、液状化対策がなされ、地震対策になると考えております。

【安田委員】 はい、わかりました。地下水位を下げるから絶対大丈夫だよ、とは思わずに、そういうことまでやっておいていただくと、安心かなという気がします。

【座長】 それは大事ですね。宮島先生と一緒に、平成19年の地震のときに現場に入りましたけれども。ちょうど埋戻しているところで、管が浮いたりマンホールが突き出たりしていましたね。やっぱり埋戻しは極めて大切なことだということで、ここは強く留意をしていただきたいと思います。

【安田委員】 資料4ページの時間経過なのですが、一番下流にあるW-15は全然変化がないということで。これはもともと変化がある予定だったんですかね。こういうふうに入れることによって、水位が下がるか下がるかないか。あるいは、もともとここは変化がない予定だったんですかね。

【事務局】 はい、ここはもともと変化がないということを確認したということです。

【安田委員】 上の方、W-1はよく効いているので、同じくらいの距離であんなに違ってく

るのかなと思ってですね。全部回り込んできちゃったんですかね。

【事務局】 参考資料7ページで、一番右下の、W-15のシミュレーションが赤に対して、実際に黒が実験結果になります。

【安田委員】 シミュレーションというのは事前のシミュレーションですか。

【事務局】 はい、事前のシミュレーションです。

【安田委員】 元々変化がないということですね、分かりました。もともとあるところで、実際には透水係数が違っていたからどんどん地下水が来たんだ、ということではないということですね。わかりました。

【座長】 ありがとうございます。

他にいかがでございましょうか。先生方のお手元には参考資料もございます。

学校の校庭というのは、僕の子どもたちが小学校に通っているときに、親子教室や運動会で私も走らされるんだけど、結構土を入れ込んで締めているというか。それなりの排水はもちろんやっているんだろうけども、土も子供達がずぶずぶといかずに走れるような締め固めがしてあると思うんですね。

この参考資料15ページから16ページ、17ページで、被災地の地層条件と、実証実験をやった校庭という場所の地層条件と、固さみたいなものはあまり変わりませんでしたか。沈下が相当小さいので私は非常に好ましく思っていますが、学校だから沈下が小さいのかどうかというところにちょっと懸念があります。

【事務局】 実験はグラウンドよりも川側の緑地で実施しておりまして、そこでボーリング調査を行っております。他の場所でもボーリング調査を行っていますが、その結果を見てもそんなに大きな違いはないというふうに確認しております。

【安田委員】 今の川村先生の話で思い出したのですが。こういった地下水位を下げる効果は、今回は液状化対策ということですが、実はもう一つあるようでして。2007年新潟県中越沖地震の後で、地下水を下げた柏崎の山本団地、そこでお聞きすると、昔は除雪車が来て振動が大変だったと。それが地下水位を下げた後は振動が少なくなったということらしいです。東日本大震災の後で、そういうことを測ろうかと委員会の中で検討したのですが、残念ながら交通振動が多いところばかりでうまくできませんでした。もしこのエリアの中で振動がひどくて困っているようなところがあって、それがこの対策によって下がったということがわかると非常に役に立つかという気もするのですが、そういうような地下水位

が浅くて住民が困っておられるようなことはないでしょうか。

【事務局】 現時点でそういう視点で住民の皆さんに確認してはいないですが、除雪車や大型車が通ることによって振動が激しいという意見は聞いてはいません。ただ、小学校の前は栗崎地区のメインの道路になるんですが、そこは冬場、除雪路線になっていますので、大型車はあまり走らなですが、除雪路線になっていることも踏まえて、聞き取りの範囲になるかもしれませんが、そういったことも確認できたらしたいと思います。

【安田委員】 それよりは測定しておくといいですね。地下水位低下前に測定しておいて、地下水位低下後に測定しておく。同じ場所で。

【事務局】 どういった方法で測定するのがよいかというのは、また検討して先生に相談させていただきながら、できる範囲でやっていきたいと思います。

【座長】 すみません。安田先生はポジティブな話ですけれども、ネガティブな方の話として。今も、飲料水には使っていないけれども、畑や自分たちの家庭菜園に使っているとかの井戸がありましたよね。地下水位が低下すると、その井戸の水位が下がりますよね。おそらく住民のほぼ全員がご賛成されると思いますけど、個々の井戸を持っておられる方は、この井戸どうしてくれるのかという話があります。以前、補償か何かで解決できればな、ということで地元を下ろしているという話でしたけれども、今もそのようなお考え方か。地下水位を下げることによって、いくつかの井戸がそれなりにネガティブな方向で補償を考えないといけないのかというところは、もし把握されておられたらお聞きしたいのですけれども。

【事務局】 以前にも、もしかしたらお答えしたかと思うのですが、現地でいろいろな井戸を持っておられる住民の方の話を聞きますと、カチコミ井戸でだいたい地表面から5メートルくらいの深さまで、入れているというところ。今回、地下水位を下げる場所でも地表面から3メートルくらいまでということで、それほど影響はないのかなというふうには思っております。ただ、地元の方からも地下水位低下工法によって、井戸が枯れるのが心配だという多くの意見をいただいておりますので、実際に工事をする前には、井戸があるところについては、工事前の揚水量を測りまして、工事後にどうなったかということは確認したいと思っています。それで、もし揚水量がだいぶ悪くなったということがあれば、補償とかいったことも考えていかななくてはならないというふうに考えております。

【座長】 その辺は、適切な対応を。地元の方に寄り添ってやっていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

【安田委員】 関連で、県道の道路下で横断する通路のところで水が出ていますよね。あれがどうなったかとか、清水がどうなのかとか、そのあたりも見ておいていただけると。

【事務局】 県道の地下道もしっかり確認をしておきたいと思いますし、清水のお話も出ましたけれども、地元からも上の清水ということで、地域のお宝としてコミュニティーの中心になっている箇所でもあります。そこについても、地下水位低下によって影響が出ると思いますので、しっかり地元の意見を聞きながら、どういった復元方法といたしますか、どうやって維持していくかということは考えていきたいと思います。

【座長】 今日、わざわざ国交省、奥山さんが、東京から来てくれていますけれども。奥山さん、何かご意見がございますでしょうか。あるいは、内灘やかほくとかと横にらみをしながら、何かこういうことを留意してほしいとか、こういうところをしてほしいとかというご意見があれば、ぜひとも賜りたいと思いますけれども。

【奥山オブザーバー】 私からは特に。金沢市さんは、いつもしっかりと進めていただいているので、他の市町さんの参考にも大変なと思います。そこで、いつも申し上げますが、そういった横展開をいただき、この地域一緒に進めていただければいいかなと思っております。以上です。

【座長】 ありがとうございます。石川県からも今日来てくれてありがとうございます。田中さんが今日、ご都合が悪かったとのことで代理出席、ありがとうございます。どうですか、石川県の立場として。今日のこの実証実験を中心とした会議の内容はいかがだったでしょうか。

【福村オブザーバー】 もともとポンプが必要無いといった前段で始まった上で、集排水管を下げてポンプが必要になることがあるというところが、詳細設計にあたり慎重にやらなければいけないのかなという風に思います。実際、かほく市さんとか内灘町さんのところは、やはり地下水位が低いところが、かなりあるということもありますので、その辺はまた金沢市さんの例を一生懸命勉強させていただいて、安全側に見ていきたいなというふうに思っています。

【座長】 ありがとうございます。それから、今日は金沢市の関連部局の課長さん等々がいになっておられますけれども。道路建設、道路管理、都市計画、どうですか。何かご意見はございますか、何なりと。これは意に反するとかがあったらどんどんと言っていただければなど。調整しないといけないわけですから。

はい、では道路管理課長さん。

【道路管理課】 道路管理課の伊藤でございます。私の方が代表というわけではありませんが、少しお話をさせていただければ。先ほど座長を始め、委員の先生方からも、最終的な道路の復旧の形についてお話がありました。今日示した図面資料の中の、集排水管が埋設される道路が、金沢市が管理する道路になってございます。最終的に道路の復旧のときに、舗装であるとか両側の側溝などが、道路施設として直接絡んでくるわけですが、その復旧の最終の仕上がりに関しましては、被災地区復旧推進室が中心となって、将来管理者である我々の方と、しっかりと調整しながら進めていくということで。また皆様方にご理解いただければと思います。引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。

【座長】 はい、ありがとうございます。今日は5部局から来ていただいて、それが代表的なご意見でよろしいですか。他にはよろしいですか。

山岸先生、どうぞ。

【山岸委員】 栗崎地区とかはこういう形で改良をするのですけれども、第2の栗崎といいたいでしょうか。例えば今回は被害が大きかったところをメインにされたのですが、たまたま今、能登のほうが中心で、震度というか、震度階はどんどん遠方になるほど小さくはなるわけなんですけれども。今度震源が変わって行って、どこかで強い強度の地震が発生したときに、また同じくらいの側方流動を伴うような金沢市のエリアの中で、そういうところを予防的に何か措置をする可能性があるのか。やっぱりお金もかかる話ですので、なかなかできないかもしれませんが、その辺りの今後のご計画について教えていただけますか。

【事務局】 はい。今回の地震では、栗崎地区が最も酷くて、あとは県庁周辺でも部分的にマンホールが浮上があったりというような状況は見られております。そんな中で例えば今、金沢で最も心配されます、森本富樫断層による地震では、かなり大きな被害の予測もされておりますが、そういった場合にどこが液状化するかというのは、今、石川県のほうで液状化危険度マップの見直しもしておりますので、その結果も踏まえながら考えていくことになるのかなと思います。けれども、委員もおっしゃったように非常にお金もかかるので、予防ということになると、今後の課題かなと思っております。

【山岸委員】 先ほど言われた件で、熊本だとなかなか着手しにくかったという話があったんですが。参考までに、熊本の場合は何が問題になったのか教えてください。工事着手までに時間がかかったと。

【事務局】 熊本は、合意形成に3年ぐらいかかっておりまして。そこを熊本の担当者から聞くと、やはり液状化対策をすることによる風評被害を懸念していたと。そこが液状化をするような土地だということで、不動産価値が下がるとか、そういったことを懸念されていた

ということも聞いてまして。結局合意が取れた一部の地区だけ今回やっているというふう
に聞いております。

【山岸委員】　そういうことですか。むしろ本当はもう少し、そういうことが不動産価格に
反映されてもいいように個人的には思いますけれども。

【事務局】　むしろ対策をすることで、上がりはしなくても下がることはなくなるのかなと
は、素人的には思いますけれども。そういった話を聞いております。

【山岸委員】　はい、ありがとうございます。

【座長】　他にはいかがでしょうか。大体出尽くしたようでしょうか。はい、ありがとうご
ざいました。

今日この集排水管の配置計画につきまして、大きな異論はなかったように思いますので、
これから詳細設計あるいは施工と進んでいくものだと思います。我々40年も50年もやって
いると、計画はそれなりに美しい形で話が進むのですが、詳細設計になるとやっぱりいろい
ろと問題もあると思います。そういうところについては臨機応変に、この基本計画の視点を
変えずにお願いをしたいということであります。

最後でございますけれども、先ほど事務局がおっしゃいました26ページのものでござい
ますけれども。これは今の時点で、今後の計画ということです。7年度は今のようなことを
一応終えて、8年度で工事着手と。7年度はこれから詳細設計というのが入るんだろうと思っ
ておりますけれども。なんとかこのような予定を前倒しできないのかなというのが、私も含
めてこの委員会の先生方も同意をしてくれるんだろうと思います。

財政の問題や、地籍の変化に対してどういうふうに対応するか、という問題はありと思
いますけれども、ぜひとも国とか県とか関係機関と十分に連携をしていただきまして、予算を
確保していただく。それから地籍の問題も早く解決していただく。そしてやっぱり工事の前
倒し、着手の前倒しというのを念頭において今後も進めていってもらいたいと思ってお
ります。それがやっぱり被災者の方々に寄り添う一番の条件だろうと思っております。どうか
そこを念頭において、今後も予定を前倒しの方へ変更していただきたいと思っております。
どうかよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。一応議事はこれまでにしまして、事務局にお返しいたし
ます。

【事務局】　ありがとうございます。委員の皆様には議事進行にご協力いただきまして誠に
ありがとうございました。

